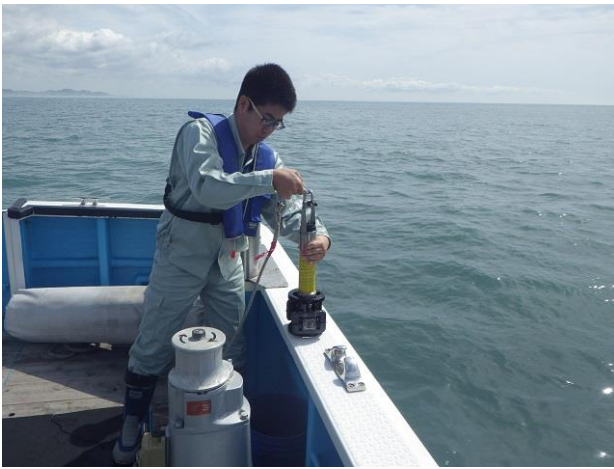


「ほうじょう」コラム

題 水産職新規採用者の乗船就業談 荻原真我

今年度、水産職として採用されました荻原です。

ここ相模湾試験場では、漁業調査指導船「ほうじょう」に乗船し、相模湾及び東京湾での様々な調査や観測を行っています。



海洋観測の状況



採水方法を教わっています

相模湾に生息している魚種は約 1600 種類とも言われおり、多様性に富んだ湾だと言えます。

その数多くいる魚種の中で、水産有用魚種であるマアジについて研究を行っています。

マアジには沿岸の根回りに付く地付きアジと、広範囲を回遊する回遊性アジの 2 つのパターンが存在します。特に地付きアジは脂の乗りがよく、市場では回遊性アジより価値が高いとされています。

そのため、地付きアジの重要性は今後さらに高まると考えられています。「ほうじょう」での釣獲調査を行い、採捕したマアジは研究室で体長、体重、生殖腺重量等を計測します。

また、脳下部にある耳石を取り出して年齢査定も行います。収集したデータから相模湾産地付きアジの生態解明に努めています。

これらの情報を漁業者の方々と共有し、資源管理の検討や新たなブランド化などの普及活動も行っています。

誰にでも馴染みのあるアジであるからこそ、より多くの人に、そしてより長く味わい続けられるようアジを知り、それを伝えていきたいと思っています。



釣獲調査状況



捕獲した魚類の測定

10年以上前から実装している R.O.V(自航式水中カメラ)は魚礁、藻場、定置網など、様々な場面で海中の状況把握に役立っています。大きなうねりがある時や潮流の早い時はコントロールが難しく、慣れるまでは苦戦していました。人間には潜れない水深まで長時間潜れることによって調査の幅が飛躍的に広がったことは言うまでもありません。普段見ることのできない海底の様子、海洋生物の自然な姿など、目を見張るものがありました。今後も、多くの現場で活用していきたいです。

調査、観測の他に相模湾の沖合に設置されている観測ブイの定期的なメンテナンスも行っています。観測ブイでは水温・流向・流速といった海の状態を把握するために観測を行っています。しかし、水温の上昇と共にフジツボやイガイが付着し、正確な観測データが収集できません。ブイやそれを支えるロープには付着生物が付かないための特殊な塗料が塗ってありますが、観測装置には塗料は塗れないため手作業で付着生物を取り除きます。こういった地道な作業によって管理されていることは試験場に入り初めて知ることができました。

また、先日小田原漁港で行われた「あじ・地魚まつり」での船内見学など、地域との交流も深めています。特に、家族連れの方々には大変興味を持っていただきうれしく思いました。

今後、多くの研究や地元との交流の場で大きな力を発揮してくれる「ほうじょう」と共に、誠心誠意神奈川県に貢献していきたいと考えています。